アイドル志望の女の子が事務所の面接で全裸にさせられる話

凛花は18歳の高校3年生で、幼い頃からアイドルになるのが夢だった。歌とダンスが大好きで、学校の文化祭でステージに立つたび、友達や先生の拍手が心を満たした。卒業を目前に、ついに本格的にオーディションを受ける決意をした。大手芸能事務所「スターライトプロダクション」の新人発掘オーディションに応募し、見事書類選考を通過した。

面接の日、凛花は緊張しながら事務所のビルに足を踏み入れた。受

付で名前を告げると、すぐに会議室へ通された。部屋には面接官の男性が2人。ひとりは40代くらいのプロデューサー風、もうひとりは30代のマネージャーらしき人だった。

「藤咲凛花さんですね。座ってください」

凛花は丁寧に頭を下げて椅子に座った。まずは自己紹介と志望動機を聞かれ、いつものように明るく答えた。歌を少し歌ってみて、と言われ、アカペラで得意な曲を披露した。面接官たちは頷きながらメモを取っていた。

「うん、声はいいね。ルックスも悪くない。ダンスも見たいけど、今日は時間がないから次回にしようか」

凛花はホッとして微笑んだ。順調だと思った。

ところが、プロデューサー風の男性が急に真顔になって言った。

「ただ、うちの事務所は本気で売れる子しか取らない。だから、身体のチェックもするんだ。アイドルは体が資本だからね。スタイルが悪いと衣装が映えないし、健康状態も大事だ」

凛花は少し戸惑ったが、「はい、わかります」と頷いた。身長と体重を聞かれ、正直に答えた。

「じゃあ、服を脱いでもらえるかな。下着姿でいいから」

凛花の心臓がドキンと鳴った。「え……下着、ですか？」

「うん。グラビアもやる可能性があるし、水着審査みたいなものだよ。恥ずかしがらずに」

マネージャーも「これはみんなやってることなんだ、ごめんね」とフォローした。

凛花は迷った。こんな話は聞いていなかった。でも、夢のためなら……と思い、ゆっくり立ち上がった。まずは制服のブレザーを脱ぎ、スカートを下ろした。ブラウスも脱ぎ、ブラ

ジャーとショーツだけになった。顔が熱くなって、腕で胸を隠した。

「手、下ろして。ちゃんと見せて」

プロデューサーの声に、凛花は渋々腕を下ろした。二人ともじっと全身を観察している。凛花は恥ずかしさで体が震えた。

「うん、肌はきれいだね。お腹も平らでいい。でも、もっとちゃんと見ないとわからない部分もある」

凛花が「え？」と思った瞬間、プロデューサーが続けた。

「全部脱いでくれる？ 全裸で」

凛花は凍りついた。「ぜ、全裸……ですか？ それは……」

「アイドルって、結局体を見せる仕事だろ？ ヌードになる覚悟がないなら、売れないよ。うちは本気の事務所だから、最初からそれくらいの意識がある子が欲しいんだ」

マネージャーも「他事務所でも、売れる子はみんなやってるよ。凛花ちゃんが本気なら、わかるよね？」と穏やかに言った。